

私たちの視察 2019年2月16日～19日



2月16日 比日会館にて

今年もまたフィリピンを訪問し、多くの支援生、卒業生に会い、そして ERDA 財団のスタッフと打合せをして参りました。

いつも訪問の前に ERDA 財団から、支援生や卒業生の成績、活動、家族の状況などについてレポートが送られてきます。読むだけで胸がつまるような状況の子もいます。一方、嬉しい報告が届く子もいます。どのような子も直接会って話を聞くことは、支援生の現状を知る大切な機会です。

今年はたくさんの卒業生が嬉しい報告を持って来てくれました。大学卒業後、国家資格を取得し、エンジニアや教師として働き始めた卒業生。転職し、ステータスもお給料もステップアップした卒業生。これまでの苦勞と努力を見てきただけに、自信と喜びに満ちた彼らに会えることは、私たちにとってこの上ない喜びでした。

これまでは残念ながら、学業の途中でドロップアウトしたり、卒業後音信不通になったり、将来の夢も夢のまま終わる子もたくさんいました。

最近の支援生は、就きたい職業も、進学したい大学もより明確になってきました。彼らの日々の努力はもちろんですが、国家資格を取得することで専門職に就けるフィリピンの実情にあわせ、国家資格取得のためのセミナー代まで支援したことも成果となってあらわれてきました。

そして面談に同席する高校生や大学生の後輩たちが、成功した先輩たちの姿に接することで、モチベーションが上がり、さらに頑張る、そんな良い連鎖が生まれれば... そんな期待を抱けた今回の訪問でした。

日比バガサの会 福田恵美子

B 基金支援生(今春卒業予定)と面談

2月16日@比目会館

マニラの最貧地区トンド出身でパガサが小学生の頃から支援して、今春高校を卒業する予定のマリー、ノルマン、ジョアナ、レクセレーヌらと会いました。皆大学進学を希望し、C基金で引き続き支援をすることを約束しました。



レクセレーヌ(18才) 2年前に父を心臓発作で亡くし、母はショックでうつ病に。弟と妹も引きこもりで学校に行っていない。62才の祖父がトライシクルドライバーをして生活を支えている。小学校教師を志望、早く働けるようになって兄弟を援助したい、

D 基金支援生(エルダテック今春卒業予定)と面談 2月17日@比目会館

今春エルダテックを卒業するジョイスとハーベーは企業での職業訓練中。既に大学を受験し、結果待ちでした。2人ともC基金で支援を継続することを約束しました。

ハーベー(18才) 父を交通事故で亡くし、母が働き、一人っ子のハーベーを育ててきた。祖父の家で母と暮らし、祖父が勉強の支援もしてくれている。卒業後はエルダテックで学んだ自動車の知識を深めるため、メカニカルエンジニアリングの勉強をしたい。既に合格している大学もある。



C 基金支援生と面談

去年C基金での支援を開始した1年生3名と3年生1名、卒業を控える4年生2名と会いました。1年生の場合は、憧れの大学生となったものの、周りのお金持ちの子弟との間の溝をどう埋めるかが課題。4年生の場合は卒業出来ても国家資格を取るためにはセミナーに通う必要があり、その費用をどうするのが問題であるようです。パガサではその費用も支援する方針です。



マリアセレステ(19才) Rizal Technological University 1年生、中等教育専攻。大学まで片道2~3時間かけて通っている。明るく優秀な生徒だが、家族の話になると涙が。昨年母を亡くし、暴力を振るう父から逃れるため兄弟で家を出て、去年就職した姉が家計を支えてくれている。学業と両立させながら収入を得る方法を思案中。

C 基金卒業の社会人と面談

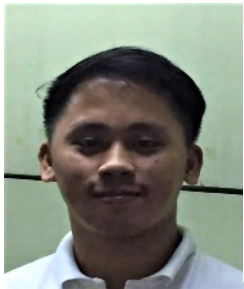
2月17日@比目会館



後列右からアーヴィン、ナオミ
ウィルヴィン、ジョナマエ

C 基金で大学を卒業し、社会人となって働いている7名と会いました。家族の問題を抱えていたナオミも正社員となり一家の大黒柱となっていました。毎年両親へプレゼントをするアーヴィンは、土地を買う計画で、家を建てるのが目標です。

以前は大学を卒業しても厳しい現実に打ちのめされるケースが多かったのですが、最近は、教師、エンジニアなどの専門職に就けたと嬉しい報告が増えて来ました。それが同席している在校生たちにもよい励みとなっていたようです。



←アリエス(22才)とウィルヴィン(23才)→

共にスラム街トンドの出身、昨年大学を卒業し、エンジニアの国家試験に合格！企業でエンジニアとして働き始めました。



アジア婦人友好会基金支援の子どもたちと面談

2月18日@トンド



アジア婦人友好会が支援する
プロジェクト【Barangay20】

5名の支援生のうち、学校の授業の関係で2名欠席。3名が保護者と一緒に来てくれました。いずれの家庭も貧しく、政府の援助を受けていますが、生活は厳しそうです。

↑左端からレナリン(8才) リーン(13才) アルハンドラ(13才)

- ・レナリンは小学校の先生になりたい。上手に歌を歌ってくれました。
- ・リーンは6人兄弟の真ん中で、弟や妹の世話や家の手伝いをよくします。将来はシェフになりたい。
- ・アルハンドラは着られる制服が1着しかなく、暑いマニラでは、毎日家に帰ると自分で洗濯しています。